専門研修プログラム連携施設紹介フォーマット

施設名	ＪＡ北海道厚生連　旭川厚生病院	連携領域	内科、小児科、外科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、病理診断科

病院情報	
住　所	〒078-8211 旭川市１条通 24 丁目 111-3
連絡先	0166-33-7171（代表） 事務担当者　小山内・青木 E-mail:rinsho_kenshu@ja-hokkaidoukouseiren.or.jp
病床数	539 床
理　念	私達は、「最も信頼され選ばれる」病院を目指します。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与致します。

領域別研修紹介

領域名	内科	常勤医数	26	名	専門医数	20	名	総合内科専門医	7	名

研修責任者：副院長　加藤　淳一
血液・腫瘍内科 主任部長 佐藤 一也
代謝・内分泌内科 主任部長 三浦 貴徳
呼吸器科 診療部長 秋葉 裕二
消化器科 内視鏡センター長 柳川 伸幸
循環器科 診療部長 小川 裕二

略歴：昭和 54 年　旭川医科大学医学部医学科卒業　1 内入局
昭和 62 年　旭川厚生病院 内科医員
平成 15 年　旭川厚生病院 副院長

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

旭川厚生病院は 5 つの内科系診療科があり、消化器科、循環器科、呼吸器科、代謝内分泌、膠原病、血液を担当している。またワンフロアの緩和医療専門の病棟があり、その専門医との密接な連携を図ることもできる。

１．血液・腫瘍内科

主に白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍を中心に診断、治療を行っている。化学療法分子標的治療を中心に、PET 検査をはじめとした画像診断が充実しているのが当院の魅力である。地域がん診療連携拠点病院にも指定されており、病棟には専任の薬剤師も在籍、無菌室も 3 室ある。また、外来化学療法も積極的に行っている。

当院は血液学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会研修施設にも認定されており、当科の研修で内科専門医のほか血液専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医の取得が可能である。

２．代謝・内分泌内科

対象疾患は主に糖尿病を中心とした代謝疾患、甲状腺疾患を中心とした内分泌疾患、膠原病である。病床数は 15 床であり、約 2,500 人程度の外来患者を管理している。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は増加の一途であり、患者数は年々増加しているが、当院では様々なコメディカルと密接に協力しながらきめ細かい診療を行っている。また甲状腺疾患、膠原病に関しては道北圏における数少ない診療施設として多数の患者が紹介されている。当院は日本糖尿病学会認定教育施設でもあり、糖尿病をはじめ内分泌疾患、膠原病の診療など幅広い研修が可能である。

３．呼吸器科

指導医、専門医による 4 名の常勤医師が呼吸器疾患全般の診療を担っている。入院における主な診療対象は肺がんが多く（年間新入院がん患者数 3,538 名のうち肺がん 499 名）、次いで呼吸器感染症、COPD、喘息、間質性肺炎、急性呼吸不全の人工呼吸管理の診療に当たっている。呼吸器内科領域の機能・画像・内視鏡診断から血管造影にわたる広域に対応しており、外来における在宅酸素療法、抗癌化学療法も多く手掛けている。また、呼吸器外科、放射線科、病理、訪問看護ステーション等の関連部門と密接な連携のもと診療に臨んでいる。

４．消化器科

常勤医師 9 名が①消化管②胆膵③肝の 3 つのグループ体制で診療を分担している。研究会の主催・共催を通じた地域医療機関との交流、高度の内視鏡診断・治療技術の導入、積極的な学会活動などに取り組むことにより、道北地域の消化器診療の拠点を目指すことを基本活動方針としている。

診療対象は消化器疾患全般に及んでおり、胃癌、大腸癌（年間新入院がん患者数 3,538 名のうち胃癌 343 名、大腸癌 385 名）をはじめとする消化器悪性腫瘍の症例数は道内有数となっている。ほとんど全ての手技に対応しており、特に消化管 X 線診断、内視鏡的粘膜下層切開剥離術、胆道内視鏡診断・治療、肝癌に対する内科的治療、炎症性腸疾患に対する内科的治療には積極的に取り組んでいる。また、外科・放射線科・病理などの関連各科との密接な協力関係のもとで診療にあたることも特徴としている。

５．循環器科

診療対象は、循環器疾患全般に及んでおり、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、不整脈疾患を中心に心血管インターベーション（PCI）H29 年実績 292 件、末梢血管インターベーション 29 件、永久ペースメーカー植え込み術を 50 件施行している。併せて日本循環器専門医研修施設、日本心血管インターベーション学会研修関連施設、日本高血圧学会専門医認定施設の認定がなされており、豊富な症例と多くの専門医の下で循環器専門医の研修が可能である。

«認定施設»

日本内科学会認定医制度教育病院　日本糖尿病学会認定教育施設　日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設　日本消化器病学会専門医制度認定指導施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設　日本大腸肛門病学会専門医修練施設　日本呼吸器学会認定医制度認定施設　日本消化器がん検診学会認定指導施設　日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本感染症学会専門医制度認定研修施設　日本高血圧学会専門医認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本臨床細胞学会認定病院　日本臨床細胞学会教育研修認定施設　日本血液学会認定血液研修施設　日本緩和医療学会認定研修施設　日本人間ドック学会人間ドック健診施設　日本糖尿病学会認定教育施設　等

領域名	小児科	専門医数	12	名			

研修責任者：副院長　沖　潤一
小児科主任部長　坂田　宏
NICU 主任部長　白井　勝

略歴：昭和 54 年　旭川医科大学医学部付属病院
昭和 55 年　富良野協会病院
昭和 56 年　旭川医科大学医学部付属病院医員
昭和 57 年　旭川医科大学医学部小児科助手
平成　9 年　旭川医科大学医学部小児科講師
平成 10 年　旭川医科大学医学部小児科助教授
平成 15 年　旭川厚生病院 副院長

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

旭川厚生病院は、旭川医科大学小児科専門医研修プログラムの旭川市内の中核病院であり、小児科医師数（2018 年 1 月現在）は 13 名、うち 12 名が日本小児科学会の専門医を有しております。主に小児科を担当する医師が 8 名、主に NICU を担当する医師が 5 名で、毎日小児科、NICU の 2 名で当直を行っております。

小児の救急疾患や感染症一般はもちろんのこと、けいれん重積、脳炎・脳症、主に道北地区の新生児の急変に対応できる体制を整備しております。

研修医は、小児科一般と NICU に分かれて研修し、希望に応じてローテーションが可能です。旭川厚生病院で研修することにより、新生児・小児科全般を学ぶことができます。

«在籍医師の資格»

日本小児科学会認定医、セイン政治蘇生法「専門」コースインストラクター、日本感染症学会専門医、インフェクションコントロールドクター、PALS（小児高度救命法）プロバイダー、小児神経学会認定医、小児てんかん学会専門医、日本化学療法学会抗菌化学療法専門医、日本小児栄養消化器肝臓学会専門医など

領域名	外科	指導医数	5	名	専門医数	8	名

研修責任者：主任部長　赤羽　弘充

略歴：平成　3 年　北海道大学大学院医学研究科（社会医学系医学専攻）博士課程
　　平成 12 年　旭川厚生病院 外科
　　平成 24 年　旭川厚生病院 外科主任部長（兼）乳腺外科主任部長

資格：日本外科学会専門医
　　日本消化器外科学会認定医
　　検診マンモグラフィ読影認定医
　　日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

概　　要：　病床数 55 床を 10 人の外科医が担当している。対象疾患は消化器外科（上下消化管、肝胆膵）、乳腺、ヘルニアなど外科全般にわたり、週 2 回の乳腺外来と週 1 回のストマ外来を行っている。胃癌、大腸癌、乳癌、腹腔鏡下胆摘、ヘルニア手術患者にはクリニカルパスを導入しており、今後さらに適応の拡大予定である。当院の検診業務の一環として週 2 回、各 40 名の乳癌検診、検診マンモグラフィーの読影を行っている。

　患者の術前検査、術中術後管理、退院後のフォローはもとより、悪性疾患では化学療法、終末期医療にも力を入れている。化学療法は入院、外来（外来化学療法室）、在宅でも施行している。NST による栄養評価、加療を行っている。終末期には緩和ケアチームを中心に緩和療法、CV リザーバー留置による在宅療養、訪問看護の活用など QOL の維持に留意している。

　手術は標準術式を基本とするが、胃癌・大腸癌に対する鏡視下手術（da Vinci 導入予定）、最新手技も積極的に導入し、道内の拠点病院となっている。また、各種学会、研究会活動も積極的に行っており、日本外科学会、日本消化器外科学会の修練認定施設となっている。

研修内容：患者管理　→　スタッフとともに入院患者を受けもち術前・術後管理を行う
　　検　　査　→　消化器外科検査法の適応と読影、乳腺画像検査、針生検
　　手　　術　→　全麻下手術第 1～第 3 助手、CV カテ、リザーバポート留置、ドレナージ etc
　　術前術後管理　→　胃切除後の食事指導、直腸切断術前後のストーマケア指導、栄養管理 etc
　　カンファレンス等　→　合同術前カンファレンス（外・消・放・病）週 1 回、キャンサーボード月 2 回
　　術後カンファレンス週 1 回

領域名	産婦人科	指導医数	3	名	専門医数	6	名

研修責任者：診療部長　光部　兼六郎
主任部長　　吉田　俊明

略歴：平成　4 年　北海道大学医学部卒 北海道大学産婦人科で研修
平成　9 年　スウェーデン ヨーテボリ大学産婦人科 留学
平成 12 年　北海道大学産婦人科 生殖内分泌・腹腔鏡手術
平成 16 年　王子総合病院
平成 22 年　旭川厚生病院 産婦人科主任部長
平成 29 年　旭川厚生病院 診療部長

資格：日本産婦人科学会専門医
産婦人科指導医
内視鏡技術認定医
母体保護法指定医
緩和ケア研修修了者

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

①北海道大学と旭川医科大学の産婦人科から 9 名の常勤医が集まり、その専門性を生かして産科・周産期ならびに婦人科医療に携わっています。

②道北唯一の総合周産期母子医療センターとして、道北のみならず道央、オホーツク圏を含む非常に広い範囲の周産期医療の中核を担っています。

③婦人科手術件数は 450 件以上となっており、札幌以北では最も多くの手術を行っている施設です。腹腔鏡や子宮鏡を用いた内視鏡手術を積極的に行っており、全手術の 8 割以上は開腹しない「低侵襲手術」で、術後 5 日間程度での退院が可能です。

④悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術も多く、平成 23 年より子宮体がんに対する腹腔鏡手術を導入しています。また平成 28 年より子宮頸がんに対する腹腔鏡手術（腹腔鏡下広汎子宮全摘術）を先進医療として行っています。

⑤平成 30 年より婦人科腫瘍に対するロボット手術を開始する予定です。

«学会認定施設»

日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医制度研修施設
婦人科腫瘍専門医修練施設
内視鏡技術認定医研修施設
日本女性医学学会認定研修施設
JGOG（婦人科悪性腫瘍機構）認定施設

領域名	皮膚科	指導医数	3	名	専門医数	2	名

研修責任者：診療部長　橋本　喜夫

略歴：昭和 53 年　旭川医科大学 皮膚科入局
昭和 61 年　市立稚内病院 皮膚科医長
昭和 62 年　旭川医科大学 皮膚科助手
昭和 63 年　旭川厚生病院 皮膚科医長
平成　1 年　旭川医科大学 皮膚科助手
平成　4 年　旭川医科大学 皮膚科講師
平成　5 年　（学位取得）
平成 10 年　旭川医科大学 皮膚科助教授（准教授）
平成 18 年　旭川厚生病院 皮膚科主任部長
平成 26 年　旭川厚生病院 診療部長兼臨床研修センター長兼皮膚科主任部長
平成 27 年　（旭川医科大学臨床指導教授）

役職：日本皮膚科学会東部支部代議員、日本皮膚悪性腫瘍学会評議員、旭川医科大学皮膚科学非常勤講師、日本東洋医学学会代議員他

所属学会：多数

賞罰：日本皮膚科学会北海道地方会賞、日本皮膚科学会雑誌論文賞、旭川医科大学同門会医学奨励賞、2017 年旭川市医師会賞、2015 年「皮膚科の臨床」第 12 回優秀論文賞など

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

道北病院皮膚科では最も多い症例数があり、幅広い皮膚疾患をくまなく研修できる。また、学会報告用の臨床例も多いので、地方会賞などの受賞者を頻出している。日本皮膚科学会の認定施設であることは勿論、道北唯一の東洋医学学会認定の研修指定病院でもあるので、先端の皮膚科学のみならず、漢方薬の使用法など東洋医学も習得できる。形成外科医も複数在籍している病院なので高度な再建術や皮膚外科手術は形成外科でも学ぶことができる。

領域名	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	指導医数	3	名	専門医数	3	名

研修責任者：副院長　畑山　尚生
　　主任部長　吉崎　智貴

略歴：昭和 59 年　旭川医科大学卒
　　平成　5 年　旭川厚生病院 耳鼻咽喉科 主任医長
　　平成 13 年　旭川厚生病院 耳鼻咽喉科 主任部長
　　平成 24 年　旭川厚生病院 診療部長
　　平成 26 年　旭川厚生病院 副院長
資格：耳鼻咽喉科専門医
　　緩和ケア研修修了者

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

常勤医 4 名（専門医 3 名）で診療にあたっており、旭川市内および近郊の耳鼻咽喉科のみならず、道北・道東地域或いは他の診療科からの紹介が多い病院です。

診療対象は中耳炎・副鼻腔炎・扁桃の炎症疾患や、めまい・顔面神経麻痺などの神経耳科疾患、さらに頭頸部の良性・悪性腫瘍を含め頭頸部外科全域をカバーしています。特に、放射線科・形成外科との協力を得て、化学療法及び照射加療を併用した大きな再建術を要する頭頸部悪性腫瘍の治療を積極的に行っています。

年間手術数は、全身麻酔下 350 症例程度、局所麻酔下 50 症例程度を施行しています。

領域名	眼科	常勤医数	2	名	指導医数	0	名	専門医数	0	名

研修責任者：主任部長　小川　俊彰

略歴：平成　5 年　旭川医科大学卒
　　平成　8 年　名寄市立総合病院眼科医長
　　平成 15 年　函館五稜郭病院眼科科長
　　平成 17 年　旭川医科大学眼科助手
　　平成 18 年　旭川医科大学眼科学内講師
　　平成 24 年　旭川厚生病院 眼科 主任部長
資格：身体障害者指定医、難病指定医

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

外来診療は眼科全般を扱っており、一通りの眼科研修が行える。道北地区有数の総合病院である事から、全身疾患に伴った眼疾患の症例も豊富である。

特に道北地区では少ない NICU を有している事から、未熟児網膜症等の小児眼科を研修するには最適である。行っている手術は主に白内障手術であるが、豊富な症例数を誇る指導医のもと手術手技を習得する事も可能である。旭川医科大学眼科との密な連携により専門医制度研修施設に認定されている。

«学会認定施設»

日本眼科学会専門医制度研修施設

領域名	麻酔科	指導医数	4	名	専門医数	3	名

研修責任者：主任部長　菊地　信明

略歴：昭和 63 年 旭川医科大学卒
　　昭和 63 年 北海道大学医学部付属病院（北海道大学 麻酔科入局）
　　平成 12 年 旭川厚生病院 麻酔科 医長
　　平成 17 年 旭川厚生病院 麻酔科 部長
　　平成 19 年 旭川厚生病院 麻酔科 主任部長

資格：日本麻酔科学会麻酔科指導医

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色、ストロングポイント»

当院では心臓外科、脳外科を除くほぼ全ての外科系手術が行われています。

外科、整形外科、婦人科の手術件数が多く、一般的な手術麻酔の症例を多数研修することが可能です。疼痛管理に硬膜外麻酔、末梢神経ブロックを積極的に行っていますのでこれらの手技も習得できます。術後の半数近くの症例は手術室の隣にある ICU で管理するため担当症例を継続して観察することが出来ます。麻酔科管理で集中治療やペインクリニック、緩和ケア科と協力して永久ブロックも行っており幅広く麻酔科の手技を学ぶことが出来る病院です。

領域名	病理診断科	指導医数	2	名	専門医数	2	名

研修責任者：主任部長　佐藤　啓介

略歴：平成　5 年　旭川医科大学大学院修了
　　平成 10 年　旭川医科大学 病理学講座 講師
　　平成 23 年　旭川医科大学 病理学講座 准教授
　　平成 26 年　旭川厚生病院 病理診断科 主任部長

資格：日本病理学会病理専門医
　　日本病理学会病理専門医研修指導医
　　死体解剖資格
　　日本臨床細胞学会細胞診専門医

研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設、連絡先など）

«研修の特色»

内科系、外科系の臨床各科より市中病院で遭遇する疾患、各種組織検体は年間 7,500 件、迅速病理 250 件程度で十分な病理診断の修練が可能である。病理解剖は年間 15～20 例程度、CPC も年間 6 回実施しており、指導医とともに十分な解剖研修を経験できる。呼吸器、婦人科、泌尿器科、胸腹水を含む液状検体など細胞診の検体も年間 10,000 件と多く日本臨床細胞学会細胞診指導医取得のための研修も可能。

«施設のストロングポイント»

遭遇する機会の多い一般的な疾患について、マクロからミクロの病理診断、内科の生検診断から外科治療、化学療法後までの疾患を経過を追って診断可能であり、それらの症例を多数経験できる。

«学会認定施設»

日本病理学会 病理専門医 専門研修連携施設